飲み合わせの悪い薬剤について（例）

お薬の中には様々な理由から、他のお薬との飲み合わせが悪くなる場合があります。
そのため、医師・歯科医師・薬剤師に、服用しているお薬を正確に伝えることが重要です。
ただし、治療上のメリットが大きい場合など、医師・歯科医師・薬剤師が個々の治療内容や患者の状態を確認しながら使用する場合があります。

併用禁忌となる薬の組み合わせ

○　『**併用禁忌**』とは、一緒に服用すると**深刻な健康被害**や、**適正な治療効果を得られない**おそれがあるため一緒に服用しないこととされているお薬の組み合わせです。

○　お薬の組み合わせによっては、お薬の効果や副作用が強くなりすぎたりします。

（事例）

■スボレキサント（睡眠薬）とクラリスロマイシン（抗菌薬）

➡ 睡眠薬の血中濃度が上昇し、強い眠気が持続するおそれがある

■サクビトリルバルサルタン（抗心不全薬）とエナラプリル等（降圧薬）

➡ まぶたや唇などに激しいむくみ症状をおこすおそれがある

併用注意となる薬の組み合わせ

○　『**併用注意**』とは、一緒に服用すると**効果が変化したり**、**副作用が起こりやすくなる**おそれがあるため一緒に服用するのに注意が必要なお薬の組み合わせです。

○　併用する場合は、医師・歯科医師・薬剤師が患者の状態を確認しながら慎重に使用します。

（事例）

■レボフロキサシン（抗菌薬）と酸化マグネシウム（下剤）

■ワルファリン（抗凝固薬）とビタミンKを含む薬剤（ビタミン剤）

➡ 併用により、抗菌薬や抗凝固薬の効果が低下し、適正な治療効果を得られないおそれがある

類似する効果の薬の組み合わせ

○　治療効果を高めるために類似する効果のお薬を使用することがありますが、使用するお薬によっては、類似した効果のお薬を同時に使用することを避ける場合もあります。

○　副作用に繋がるリスクがあるため、お薬の特性や患者の状態に合わせて、使用が判断されます。

（事例）

■高血圧薬、糖尿病薬、去痰薬、抗アレルギー薬、・・・

➡ お薬の種類や患者の状態により組み合わせて使用されるか異なる

その他の組み合わせ

○　他にも、様々な理由で一緒に使用することが望ましくない組み合わせがあります。

（事例）

■酸性の薬剤（ビタミンC等）とアルカリ性の薬剤（炭酸水素ナトリウム等）を混ぜる

➡ 酸とアルカリで反応が起こり、薬の効果が失われるおそれがある

注）その他、特定のお薬を混ぜて、大きく味が損なわれることなどもある

※取り上げている事例あくまでも一例です。事例は薬局ヒヤリハット事例収集・分析事業等で収集された事例を元に紹介しております。